

特集

ポラン広場東京 ネットワーキングレポート
2014



NETWORKING NEWS LETTER



CONTENTS

特集

オーガニックショー
ポラン広場東京2014
ネットワーキングレポート

■ミニトーク

「よみがえりのレシピ」 渡辺智史監督
食はいのちを支えていくもの
そこから新しい未来がよみがえる

■トークショー

八木澤商店・河野和義会長

おいに語る

復興への志

■稲澤美穂子さん／朝日田卓教授

三陸 海のまなざし

海のまなざしにこたえるために
原発は、いらない！

エネルギーシフトウォーキング12

Peace On Earth

…311東日本大震災市民のつどい

[INFORMATION]

事務局からのお知らせ

●4月の活動予定

●活動短報

NEW
STAGE
2014

4月号

私たちは
東北を
忘れない

オーガニック
本来の価
値とは何か?



在来作物の魅力を語る山形アルケッチャーノ・奥田政行シェフ。上映会にて

食はいのちを支えていくもの そこから新しい未来がよみがえる

映画「よみがえりのレシピ」
上映会&渡辺智史監督ミニトーク

■スローフード運動のこと

食べものが工業化されて扱われるような映像をたくさん観てきた中でスローフード運動に出会い、自分で映画を撮ってみたいと思うようになりました。タネにも興味があったので、「タネ」と「農業と食についての意識」という問題を重ねあわせてみて、在来種、というテーマって重要だなと思ったんです。

そして、自分が生まれた山形県鶴岡市に、アルケッチャーノの奥田政行シェフが、山形大学農学部には江頭宏昌先生もいて、スローフード運動を提唱する食のコミュニティをつくろうという動きが、鶴岡を中心に、とても小規模でしたが始まっていました。

■在来作物の歴史から学ぶ

震災で売り場から忽然と食料がなくなりました。自分がそういう体験をしたときに、生産者が語っていたことを改めて聴いたら、そこでは、飢えの記憶、飢饉の話が切々と語られていたんです。



渡辺智史監督

こういう大変な歴史の上に、在来作物が残ってきた意味があったということに、改めて気づかされたたんです。そして、そこには次世代に向けてのキーワードがたくさん残っていたんです。

■歴史を未来に結びたい

食は、いのちを支えていくものです。在来作物が通ってきた食糧難の時代を振り返りながら、新しい社会を作っていくことが、今の時代に非常に大事です。在来作物に学ぶことで、これからの自分たちが、すごくワクワクする社会をつくっていけるんじゃないかという、期待を感じているんです。

在来作物と種を守り継ぐ人々の物語
『よみがえりのレシピ』について

在来作物は何十年、何百年という世代を超え、味、香り、手触り、さらに栽培方法、調理方法を現代にありありと伝える「生きた文化財」である。しかし高度経済成長の時代、大量生産、大量消費に適応できず、忘れ去られてしまった。社会の価値観が多様化する現代に、足並みを合わせるように在来作物は、貴重な地域資源として見直されている。在来作物を知ることは、食と農業の豊かな関係を知ることにつながる。地域に在来作物がよみがえり、継承されていく姿は、豊かな食を味わい、楽しむ姿であり、地域社会の人の絆を深め、創造する姿である。この動きを日本全国、さらには世界中で起きている食や農業の問題への処方箋(レシピ)として、伝えていきたい。

(ウェブサイトより)



■トークショー
岩手陸前高田 八木澤商店 河野和義会長

おいに語る 復興への志

陸前高田の震災前がどうだったか、知らないでしよう、すべてが消えてしまう前の美しい映像から当時を語り始めた河野和義さん(八木澤商店会長)は、生まれ育った町がたった8分で津波に飲み込まれた瞬間を写した4枚の写真をもとに、現在までの様々な物語をお話しくださしました。そこで語られたのは「人のやさしさ」、九代目へと引き継がれた「復興への志」でした

「陸前高田の悲惨な状況は皆さんテレビでご存知と思うんですが、それまでは7万本の高田松原があり、昭和35年の6mの大津波でも残った。私が住む気仙町今泉の集落は、その前の昭和8年も、明治の津波でも一滴も水が入ってこなかった。調べたら350年は間違いなく津波は入っていませんでした。八木澤の従業員たちは、年2回欠かさずいつも工場裏の神社の山に登って訓練してきたこともあって、社員1人をのぞいて全員が助かった。でも、その山の上は大丈夫だったのに、今泉の集落は、604戸あったうち597戸が跡形もなくなっていました」

■八代目、故郷に帰る

3月11日、岩手・陸前高田の老舗醤油蔵、八木澤商店八代目・河野和義会長は東京にいました。多くの方々に助けられ、故郷の陸前高田にたどり着いたのは3日後のことでした。

「あの日は、新幹線に乗って上野を過ぎて間もなくの2時46分に電車が停まった。2時間半閉じ込められて、新幹線は上野

に戻り、降ろされて。その日は駒込の妹の家に身を寄せたんです。翌日、友だちが「これで帰れ」と車を借してくれ、ガソリンスタンドのオヤジは、真夜中に内緒でガソリン満タンにしてくれた。別の友だちは「黙って高速に乗れ」と車にシールを貼ってくれ、そのはからいで一般車両が通行できなかった高速道路に乗せてもらえたんです」

……やっとの思いでたどり着いた故郷は見るも無残。一帯は瓦礫だらけの廃墟でした。でも、相変わらず家族はどこにどうしているかわからない。河野さんはお寺や神社、学校と、避難所になっている施設を歩き回って、結局、家族や社員が逃げ込んでいた長部(おさべ)集落にたどり着くのに、さらに半日を要しました。そして家族との再会を果たしたのです。

「子どもたち孫たちがやってきて、人目もはばからず抱き合い、『生きてたかー』と家内(河野光枝さん)をハグしようとしたら、会うなり『アンタ今までどこウロウロしてたのよー!』って。うろろしてたわけじゃないっつーの(笑)。彼女それどころじゃなかったんだ。でね、それからというもの、女房には敬語をつけるようになりました。『うちのおっかない(家内)』って。(大笑い)」

この間、長野の友だちからの電話がつながって、「1万個のゆで卵と3トンのお米を積んで走ってる。どこに持っていけばいいか教えろ!」と、支援の声も集まり始め、河野さんは「それは避難の人が多い高田一

中に!」と、現場の救援活動に身を投じていくことになります。

■ゼロから。助け合いから

「せがれ(現9代目・河野通洋さん)には4日めに会って『オヤジ、やろう』と言われた。私は『バカなことやってるんじゃない』と返した」

和義さんは廃業を考えていました。八木澤商店は、醤油も工場もすべてが流されてしまったのです。それでも通洋さんは、「オヤジはいつも社員を『家族』って言ってきた。雇用を守ろう。商売を替えてでも八木澤を続けよう」と迫ります。そう、かつての八木澤の工場には、厨房とでっかい古びたテーブルあって、パートも経営者も一緒にごはんを食べてきた。だから家族だ。家族だから解雇しない……。

八木澤商店は、支援物資が集積していた高田自動車学校を仮の活動拠点にして、避難所への物資運搬を始めていました。そこで、家が流されなくてかえって孤立化した方々に救援先を絞り込み、社員の皆さんに自動車学校の職員、なんと家を流された人たちも加わって、物資をお届けする活動を開始しました。

家を流されてしまった人は「避難所で与えられた食べ物だけ食べるんじゃない気が狂いそうだ」と救援活動に加わり、流されなかった人は、避難所で何もかも失った人のことを思い支援物資の受け取りを固辞する。現場ではそんな助け合いの輪も生まれていました。

取り引きではなく取り組み!

日本の食をもう一回みんなで変えなきゃ。買ってくれる人も、我々生産者も、ポランさんも、みんなで「取り引きじゃなくて取り組み」という考えで、日本の農業を変えていかなきゃいけない。スーパーの商品ばかり買ってる人で、ポランの商品は高いよっていう人も、いるかも知れない。でもそれは違う。まともなんだ。まともなものをまともな値段で買う運動をしないと、日本はおかしなことになってしまいます(河野会長談)



■トークショー「三陸 海のまなざし」

ポラン広場東京のカレンダーでもおなじみの稲澤美穂子さんと、北里大学海洋生命科学部の朝日田卓教授という異色の顔合わせが実現したトークショーでは、「三陸の海」をめぐる出会いの糸を稲澤さんが紐解き、朝日田先生が海／生命の視点から掘り下げてくださいました。

■三陸の海を忘れないこと

震災のショックで絵を描くことができなくなってしまった稲澤さんは、震災のあった2011年、ポラン広場東京の神足義博から「行かなければ何もわからないよ」と誘われ、被災地を巡りました。そこで「日頃なら見過ごしてしまう事が小さな希望のきっかけになる」との思いを持ち帰り、ふたたび絵が描けるようになったそうです。

翌年、「海」が向こうから近づいてきました。なんと三陸鉄道のラッピング列車の絵を描くことになり、稲澤さんは再び三陸の地を訪れることになったのです。神足から八木澤商店の河野会長、河野会長からは三陸まるごと体験館の熊谷さん、そして熊谷さんから、朝日田先生と、出会いの糸がつながっていったのでした。

「三陸の不思議なお魚を子どもたちに伝えたい。海を好きになってほしい」

震災後の2年間のお話をしてくれた河野会長と、朝日田先生を紹介してくれた熊谷さん。日本が世界に誇る三陸の海の自然は未知数で、途方もなく深くて大きな、海の生きものたちの命の営みの場だということを教えてくれた朝日田先生。この海はまさに「奇跡の海」だった。出会いの糸が結ばれて、稲澤さんは、より強く三陸のす

海のまなざしにこたえるために

…朝日田 卓（北里大学海洋生命科学部教授）
稲澤美穂子（イラストレーター）

ばらしさを伝えたいと思うようになりました。三陸鉄道のラッピング列車、そしてポラン広場東京の2014年カレンダーは、このようにして生まれました。

そして、まだまだ続くこの復興の道のり。どんなことでも良いから忘れずにいることが大事です、と話してくださいました。



■奇跡の海に学び、活かそう

朝日田さんは現在、震災で大きなダメージを受けたアマモ場や波打ち際に集まる稚魚の状況を調査しています。環境は自然に回復するけれど、瓦礫置き場や防潮堤の新設など、人工の場所では環境が悪化しつつあり、今後の人間の活動の影響を心配していました。ところが……「震災直後にいなくなった稚魚が、今は増えていきます。防潮堤が破壊されて全然違う環境になっているのに、魚の赤ちゃんたちは自分のすみか

を見つけていけずに生きていた。幻のカレイといわれるホンガレイやヒラメなどの稚魚も見つかり、アイナメも産卵して子どもが生まれている。三陸の海は、回復し始めていたのです」

…三陸は「奇跡の海」といいいいほど、様々な好条件が揃った海。回復スピードは予想より早かったそうです。

ところが、復興はなかなか進まない状況。朝日田先生は、すばらしい三陸の海を食べ物としてだけでなく、環境をふくめてトータルに活かすことが重要ではないか、と考えています。日本のサケはせき止められて川を遡上できないが、本来は森に入って、海の栄養を還す役割があったそうです。アラスカではサケのふ化場は森にあり、水族館もあるような観光拠点になっている。環境保全型の水産業は、複合的にまとめていくと、様々な価値を生み出すことにつながる……

「稲澤さんのカレンダーのお魚たちが見つめています。…いつも『海のまなざし』に見つめられているような気がします」

…私たちには、自然に謙虚に学び、活かすことが求められているのではないかと。「奇跡の海」は答えてくれている。朝日田先生のお話は、三陸を愛する研究者として、未来に残せる三陸の復興を願う切実な気持ちが伝わるお話でした。

■2人の家族が増えましたよ！

「社員たちの活躍はハンパじゃなかった。物資を届けながら『八木澤商店、200年間お世話になりました。物資をもらって下さい』と。もらう側が、『八木澤だって何も無いんだろ？家のある人のためにここまでやるのか？』って聞いてくる。『でもこれ社長命令なんです』って言うと、みんなが泣いて喜んだ。その時何人かが、「さすが八木澤商店だね！」「八木澤商店らしいね」って言ってくださって…」

……震災からずっと、廃業を考えていた和義さんは、通洋さんの言うとおりに、3月23日「やれるところまでやってみるか」と、八木澤商店再興の決心を固めました。

4月1日。重大発表をするからと、高田自動車学校には社員とパートさん、そして今年新しく入社する予定の2人も加わって、震災後初の朝礼が開かれました。この場で和義さんは社長を通洋さんに譲って会長に退きました。通洋さん、光枝さんの3人で前の晩、寝ずに準備したお給料は、社長最後の仕事だからと、和義さんから全

員に手渡ししました。

新社長の通洋さんは、社員をひとりも解雇することなく経営を続けることを宣言。そして新たに迎え入れることになった2人の新入社員に訊ねます。「売るものも何もない会社です。残ったのはトラック2台だけ。こんな会社だけどどうでしょう？」。和義さんは、通洋さんのこの後のセリフを聞いて「ああ、こいつに任せていいや」と思ったそうです……

「みなさん。この2人入りたいそうです。また2人の家族が増えましたよ！」

■ありがとう、おかげさま

『『ありがとう』と『おかげさま』。もう70になりますが、この言葉、3年間でいちばん使いました。大学生に『電気ない水ないガソリンない電話通じない生活したけど、君たちはそれがあるのが当たり前。ものすごい幸せなんだよ』って言います。ぼくは本当は今しあわせなんだ。平々凡々っていうけど、あたり前の暮らしがどれだけ幸せかって気がついた時に、そうい

ばあの陸前高田どうなったかな、と、思い出していただければ幸いですよ」。

……お話の最後に、ご名刺の裏書を2つ紹介していただきました。1つは新社長のもと新たなスタートを切った2011年4月から2012年9月までのもの。もう1つは、新社長の掲げる「経営理念」です。この「経営理念」は、八木澤商店の全員が暗誦できるのだそうです。

ふるさとには負けない
ひとつ生きるひとつ暮らす
共に暮らしを守る
ひとつ人間らしく魅力的に
(2011年4月～2012年9月)

八木澤商店の経営理念

- 1 私たちは、食を通して感謝する心を広げ、地域の自然と共にすこやかに暮らせる社会をつくります。
- 1 私たちは、和の心を持って共に学び誠実に優しい食の匠を目指します。
- 1 私たちは、醤(ひしお)の醸造文化を進化させ伝承することで命の環を未来につないでゆきます。

原発は、いらない!

オーガニックラボ
ポラン広場東京
2014

3.08さよなら原発 エネルギーシフト ウォーキング(12)



只今 日本の稼働原発はゼロ!
電気は足りてる!~再稼働より
ダダ漏れ汚染水対策!!~原発か
ら出る核のゴミ(使用済み核燃料)
はもうすぐ満杯!~青森県六ヶ
所村の中間貯蔵施設はすでに満杯!
~再処理工場は動かない、高速
増殖炉「もんじゅ」も動かない!
~核のゴミの最終処分場は候補
地さえ決まらない!~それでも
原発再稼働!~原発いらない!
今こそエネルギーシフト!!

……毎月11日に近い土曜日に、
ポラン広場東京と市民グループ
「青梅ブンブンの会」の呼びかけ
で続けている「さよなら原発エ

ネルギーシフト」ウォーキング
は、3月8日のウォーキングで
12回目。青梅市・株樹公園から青
梅市役所を経て大塚前公園(JR
青梅線東青梅駅)まで2.5キロを
歩きました。近隣にお住まいの
皆様のご参加をお待ちしています!



キッズウィークエンド
@青梅~福島
子ども保養ツアー写真展
とワークショップ



青梅
ブンブンの会

「キッズウィークエンド@青梅
~福島子ども保養ツアー」の
ミニ写真展と、ワークショッ
プ「自然の素材で筆と絵の具をつくり、みんな
で大きな布に食べ物や生きものの絵を描こう」
を実施。土や木炭からつくる絵具、笹竹をたた
いてつくる筆。ステキなアートが完成しました!



事務局からのお知らせ

賛助会員の拡大にご協力をお願いします!

●ポラン広場東京は、2011年施行の「新寄付税制」と2012年4月施行の「改正NPO法」に基づき、「認定NPO法人」の取得を目指しています。●認定NPO法人への寄付には、寄付者への所得税・住民税控除、会社等法人への損金算入枠拡大などの税制優遇措置が設けられました。この「新寄付税制」を活用し、補助金助成金と自主事業収入中心の不安定な資金調

達から、会費・寄付金収入を主な資金とする法人運営へと発展させる事がねらいです。●認定取得の主な要件は「年平均100名以上の寄付者がいること」です。賛助会員の年会費(5千円)は寄付金とみなされるので、賛助会員100名以上で要件を満たします。●ぜひともご家族、お友達などにお声がけいただき、賛助会員の入会拡大にご協力ください!

活動予定

●4月12日(土) さよなら原発
エネルギーシフトウォーキング(13)
青梅市東青梅~河辺
http://www.polan.tokyo.jp/04_net_working/130413_walking.html

●4月18日(金)~20日(日)
キッズウィークエンド@青梅5
~福島子ども保養ツアー
●4月19日(土)・20日(日)
アースデイ東京2014
~ファーマーズガーデン“春”@代々木公園

活動短報

- 8 さよなら原発 エネルギーシフトウォーキング(12)
青梅市河辺~東青梅 開催
- 8・9 311東日本大震災 市民のつどい Peace On Earth /
アースガーデン“灯”~ファーマーズガーデン
@日比谷公園 企画・出店
- 10 NPO法人TEAM二本松(福島県二本松市)「青空市場」
に義援物品をお届け
- 20 NPO法人TEAM二本松(福島県二本松市)「青空市場」
に義援物品をお届け

Peace On Earth

311東日本大震災 市民のつどい

「未来の子どもたちへ自然エネルギーの確かな一歩を今年こそ」をサブタイトルに、震災から3年を経た現在、未来を語り合い、わちあう場として開催されました。ステージでは坂本龍一さん、加藤登紀子さんほかミュージシャンのライブや、CWニコルさん、辻信一さんほかによるトーク。最終日の3月11日14時46分には被災された方々への黙祷が捧げられました。ポラン広場東京は賛同団体としてブース出店。おなじみの有機野菜やポランチョコレート、オーガニックビールの販売を行いました。会員の湘南びゅあでは、ソーセージ盛り合わせの販売を行いました。



じむきよく NOTE



4月18日~20日、キッズウィーク
エンド@青梅5~福島子ども保養
ツアー開催。アースデイ東京2012
からスタートし、毎年4月と8月に行
なっており、延べ200名の子
どもたちを受け入れる事になる。繰
り返し参加する子が多く、皆勤賞
も何人かいる。参加要項・申込書
を子どもたちに発送する際には、

その子らの顔が浮かんできて、う
るうるしたり写真アルバムを見
直したりで、きわめて作業効率が
悪い(笑)。キッズ@青梅の食事は、
すべてオーガニック・ナチュラル・
[不検出]の食品で賄われている。
ポラン広場東京の生産・製造者の
協力の賜(たまもの)です。これか
らよろしくお願いいたします(佐藤)

NPO法人ポラン広場東京 ネットワークングニューズレター

4月号



2014年 4月 1日発行
(毎月1日発行)

特定非営利活動法人 ポラン広場東京
〒198-0052東京都青梅市長淵4-393-11
TEL: 0428-22-6821 FAX: 0428-25-1880
E-mail: office@polano.org